

2021年7月18日(火)快晴、強烈に暑い。今日の行程は、つくば研究学園都市を通り抜けて田園の中を散策。折角だからコースを外れて、上高津貝塚遺跡を訪ねて、ゴールの土浦駅に向かうコースにした。筑波実験植物園を訪ね、つくば学園都市内遊歩道を、ゆっくり散策できたのは素敵だった。

つくば研究学園都市は、28万ヘクタール(東京都区部分の1/2を占める面積)の広さに、約22万人が居住している。東京から移転した筑波大学を中核として、「高水準の研究と教育を行う拠点として、それにふさわしい研究都市を建設すると共に、均衡のとれた田園都市を整備して行く」と、コンセプトにある。



⑮学園都市のみち案内板(首都圏自然歩道連絡協議会)



コース説明版。全長14kmのつくば公園通りを歩くと説明にある



コース地図 (台坪→植物園→エクスプレスセンター→さくら交通公園→上高津貝塚→勾橋)



今日の鉄道最寄り下車駅は、つくばエクスプレス「つくば駅」。日曜日なのにさすが学生が多い



台坪まで行きたいが連絡バスの便が悪いので、学園循環バスに乗車、天久保バス停で下車



歩いて本コース出発点の台坪交差点に行く。右折して 3 km 行けば⑭の接続地点に到達する



台坪交差点には「⑮学園都市のみち」案内板が置かれているから、道標通りに歩いてゆこう



県道 55 号線は学園都市の外郭道路で大学、諸研究機関が接続している本通りだ



「筑波大学」前身は東京師範学校であり東京教育大学である。  
 1973年開学、2020年に指定国立大学法人となる。国のスーパーグローバル大学のトップ指定校。  
 ほとんどの教育・研究活動はここを中心に行われる。産学連携活動が特色となっている



「国立科学博物館 筑波実験植物園」植物の研究を推進するために設置した。  
 植物の多様性を知り、守り伝える事を使命に研究、保全、展示、学習支援活動をしている。と書かれている。



沢山のブースを見ることは、歩く時間の制限があるので、かいつまんで紹介しよう



入口からエントランスプロムナードを歩き始める。 アメリカセコイヤ、中国のメタセコイヤ、ヨーロッパのマロニエの木、アジアの栃ノ木等が、整然と植栽されている



遊歩道に入っても植物の説明板だらけで、頭が混乱してくる



莓の展示もそうだ。モミジイチゴ、フユイチゴ、イワシロイチゴ等雑多に植えてある。“とちおとめ”はなかった



サバンナ温室は乾燥植物だらけ



熱帯雨林室はめずらしい植物がずらりバナナ、マンゴー、パンの木いろいろある。とに角雑多にびっしり植えられている所が、観光客向けでない事なのだろう



「チューインガムの木」があった。古代アステカ人がこの樹液を噛んでいた。見始めたらしきりがないが先を急ぐ身、この辺りで退出しよう



日蔭の歩道もまた素敵だ、右側は大学構内



道路幅より歩道の方が幅広く、ゆったり作られているから、安全安心して歩ける



「つくば公園通り遊歩道」今日歩くコースのメイン。道幅 10~20m、延長距離 14km の遊歩道で公園、学校、図書館、美術館、研究機関、公共施設、商業施設等が歩道に面して立地している。



「松見公園」泉水に張り出した、ゆったりしたカフェが素敵



学生達はサッカーに興じていたが悲壮感はない、健康維持の為にやっているのだろう



「つくばエキスポセンター」実物大のH-2型ロケットが展示されている。宇宙開発、海洋開発を始め科学技術全般にわたり、分かりやすく展示されている。世界最大級のプラネタリウムが有名。





筑波大学はグローバルな大学であるから、110 を超える国・地域から留学生を受け入れている。2021 年は 2,353 人が筑波大学で学んでいる、受け入れ留学生の一位は中国、二位は韓国



遊歩道はこの先国際会議場、研究交流センター、筑波宇宙センターへと続くが、関東ふれあいの道はここで県道に降りて、土浦方面に向かう。



遊歩道を降りて左折し、学園地区を離れ、県道 24 号線を土浦方向に向かう



鉄道公園でトイレ休憩。アイスクリームを舐めて一休み、暑くてたまらん。  
[D51]。昭和12年9月日立製作所で製造、東海道線広島を走っていたが、昭和25年北海道に渡り、小樽を中心に運行。昭和50年12月廃車になるまで38年間で287万キロも走った



私もここで休憩を兼ねて昼食としよう。



午後は日照りの厳しい県道を外れ、田園地帯の農道に入る。風が通り抜けて涼しい



つくば学園都市は、筑波山を含む昔からある、豊かな自然や田園が調和・共生する場所となっている。日本国内ではあまり見られない地域形態だと言う（遠方奥の山は筑波山）



レンコン畑も広がる。冬になると葉が枯れ、正月の食材として関東地方に出回る



関東ふれあいの道コースから外れて、尖塚集落を通り、上高津貝塚を見に行く



「上高津貝塚」明治 39 年発見された。石器、土器、土偶も出た縄文後期から晩期にかけての遺跡で、霞ヶ浦から 4km も離れている。今から 4 千年前は、この辺りまで海が進出していたという



展示館には貝塚を切り取って展示してある（国指定史跡）



縄文後期そのままの貝塚で、主としてシジミ、ハマグリ、魚の骨が挟まっている



上高津、下高津集落を通り、桜川のほとりに出て関東ふれあいの道に戻る



住宅が増えてくれば、今日のゴールは近い



「白鳥」今日のコースゴール。河口に近い、駅までは15分程で行ける。



常磐線土浦駅、ビールとつまみを買って、グリーン車二階に陣取って一人乾杯(コロナのため隔離)

[参考タイム] つくば駅(7:45-7:50)→台坪入口(8:22)→植物園(8:50-9:40)→エキスポセンター(10:30-10:40)→交通公園(11:10-11:20)→花室(11:35-12:00 昼食)上高津貝塚(14:00-14:15)→匂橋ゴール(15:35)→土浦駅(15:50)

この項完

「関東ふれあいの道(茨城)⑩予科練のみち」に続く